

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 01 月 29 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (O) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	() 1 年 (O) 2 年
授業科目名	GRADUATION SEMINAR B
担当教員名	ANAMARIA SAKANOUÉ

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

The main objective of this course is to develop and enhance students' ability to write creatively by using real life prompts such as: self-introduction, creating own story or own character, think about their future job, self-reflection, imaging their ideal partner, describing a famous Japanese person or PR Japan. Through the writing process students are able to make connections between their lives and their learning.

Outline of the class:

1. First the students share their journal (assigned as homework from the previous week). They listen and give their impression or opinion about the contents and give suggestions to the reader.
2. Teacher assigns new topic- Students are given about 20 minutes to write on the topic of the day. If the topic is too difficult, more time is allowed.
3. Teacher monitors students giving them hints on how to write and checks grammar if needed.
4. Students present their journal passages.
5. Teacher and classmates comment on the presentations.
6. Teacher assigns a new topic that students begin to write in class and finish as homework.

From the survey conducted on the last day of class (January 29th, 2015) 90% of the students (class consists of 15 students) have noted a significant improvement in their writing skills and speaking skills as well. The opportunity to write and share their passages seemed to have given them confidence in speaking as well. They also noted that (80% of students) that the chance to create and reflect about their lives and future was a very beneficial one since they were all second year students whom had to think about their future on their daily basis.

In the survey 50% of students recommended that teacher checks their grammar more consistently and gives them suggestions on how to use the appropriate words. Teacher also needs to slow down the pace and give students more time to think and reflect (30%

of students noted that). Lastly about 10% mentioned that some of the topics were difficult to write and they had a hard time writing about it. A couple of students argued that in spite of writing regularly in this class, they felt that their writing has not improved; however they felt their listening skills have been enhanced.

The teacher plans on changing the pace of the lesson, dedicating more time to grammar check and provide students with a more variety of topics from which they could choose from.

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成27年 2月 28日
科目区分 (該当するものをに○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものをに○)	() 1年 (○) 2年
授業科目名	卒業演習B
担当教員名	萩野 敏

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

「卒業演習 B」は、前期の「卒業演習 A」を受けた発展的な科目であり、同じ受講者による発表を中心とした授業なので、「卒業演習 A」での学生からの評価や意見を参考に授業の運営を進めた。各学生の発表が済んだ時点で、下記の項目を加えた自由記述式の授業アンケートを実施し、出席者 14 名から回答を得た。

1. この授業を振り替えて総合的にどのように評価しますか。

- ①とてもよい(6) ②よい(8)
③よくない(0) ④とてもよくない(0)

全体として学生からは高い評価を得たと考えている。前期の「卒業演習 A」の授業アンケートにおいて授難易度に関して、「難しい」と回答した学生と「易しい」と回答した学生がいたのは、個々の学生の英語力やプレゼンテーション能力の差に基づくと考えられ、その後も、多様な学生が混在していることを前提に授業を進めるように努めた。一方で、今回のアンケートの自由筆記の中には、「本気で取り組む人ばかりだと思いますので、準備不足やなまけによる発表の後回しにはもう少し厳しく対応したほうが良いと思います」との意見もあった。多様な学生への対応を、より一層慎重に進める必要があると感じた。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	H26年 11月 19日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	Listening I B
担当教員名	藤原正道

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

アンケートの結果は、以下のとおり。

1. 予習・復習の習慣がありますか。

①全くしない 65% ②たまにすることがある 35% ③ほぼ毎回する 0% ④毎回する 0%

2. 授業の難易度についてどう思いますか。

①難しい 0% ②理解できないときがある 22% ③ほぼ理解できる 74% ④易しい 4%

3. 授業の進行スピードについてどう思いますか。

①早い 0% ②やや早い 5% ③ちょうど良い 90% ④やや遅い 5% ⑤遅い 0%

結果としては、おおむね良好と判断する。1については、授業の直接の予習・復習というよりは、学生各自が Listening 能力の向上に努めて、普段から TV、映画などを利用して英語を聞く習慣をつけることが求められるので、そのような学習指導をしなければならぬと実感した。本授業でも映画などを用いた。

授業の難易度、進行スピードは、前期の Listening I A の実質上続きの科目であるため、前期に学生のレベルに合わせた調整を行った効果が出たと予想する。

Listening に限ったことではなく、授業以外に英語の学習に費やす時間（量）に比例すると思われるので、学科全体または、学校全体での語学学習の習慣付けが必要になってくるであろう。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 4 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： (○) 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	インテグレート・イングリッシュ
担当教員名	三田 薫

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

平成 26 年度後期「インテグレート・イングリッシュ」は、短期大学部では日本語コミュニケーション学科の学生が履修する。後期授業を実施するにあたって、私を含め、担当する日本人教員 3 名で何度も話し合いを行い、また授業内配布資料を作成した。

日本語コミュニケーション学科の学生の中には例年英語嫌いの学生が見られるため、英語の苦手意識を少しでも軽減し、多少でも達成感を得られるようにする授業内容を目指した。

最初の授業では、高校までに学んできた英文法を総復習し、それを理解するためのアクティビティを行った。

翌週から始まったテキストの学習では、英語原文を 4 分割し、それぞれについて単語の意味やスペルの穴埋め練習や、1つの構文を取り出した書き換え練習を行えるようにプリントを用意した。

構文練習は、まずは、日本語の文について主語、動詞、補語、修飾語などを選び出し、それを並べ替えることによって英語構文を理解させるという方式（調整和文）を担当教員の一人が開発し、それを 3 クラスで共有して学習させた。この方法については、学期末アンケートで回答者 29 人中 28 人が「役に立った」と回答した。

毎回の授業の冒頭には小テストを行い、前の授業で学んだ内容について出題し、その点数が、成績に直接反映するようにした。

テキスト学習の合間に、英語一般動詞文の時制や相を一覧にした表を用いて、肯定・疑問・否定・否定疑問の切り替えをリズムに合わせて行う学習を導入し、また穴埋め表を用いて練習できるようにした。この表は、小テストの際にも活用して、何度も繰り返し練習させることによって定着を図った。この方法についても、学期末のアンケートで回答者 29 人中 28 人が「役に立った」と回答した。

アンケートの自由コメント欄では、「英語が前より好きになった」「基礎固めができて良かった」といった回答が多く見られた。また「来年度もこういった基礎力向上の英語授業があれば取りたいか」という質問項目に対し、回答者 26 人中 16 人が「取りたい」と回答した。